

[スズキのセニアカー「ET4D」操作パネル]

電源スイッチを入れると、バッテリーの残量がわかりやすく表示される。

スピードは6段階。最高速度で時速6km程度。早足で歩く程度の速さ。



後ろから見たらこんな感じ。シートの背面には赤色LEDランプが装備され、さらにウィンカー&ポジションランプや反射板によって遠くからもはっきり見えるようになっている。

前進と後進は、切り替えスイッチで簡単に操作できる。

左折や右折をする場合は、ウィンカースイッチを出す。



●スズキ ET4D (写真左)
寸法(全長×全幅×全高): 1195×650×1080mm
バッテリーを含む総重量: 98kg
最高速度(前進): 6km/h
最高速度(後進): 2km/h
メーカー希望小売価格: 34万8000円

●ホンダ モンパル ML200 (デラックスタイプ) (写真右)
寸法(全長×全幅×全高): 1190×595×1045mm
バッテリーを含む総重量: 112kg
最高速度(前進): 6km/h
最高速度(後進): 2km/h
メーカー希望小売価格: 37万8000円



立ち上がりスピードがスピーディ!

ホンダの「モンパル ML200」にも乗ってみる金子さん。

シニアカー基礎知識

●シニアカーとは、三輪または四輪の「ひとり乗り電動車両」のことです。運転免許は不要。道路交通法では「歩行者扱い」となるので、車道ではなく歩道を通行します。

●家電製品と同様に引き出し式の充電コードが付属しており、家庭の電源から充電できます。ただしバッテリーを取り外せるわけではないので、駐車する場所などは考慮する必要があります。

●シニアカーは福祉用具とされているので、購入にあたって消費税は課せられません。また、介護保険制度を使ってレンタルをすることも可能ですので、そういった制度を利用している方も多くいらっしゃるようです。

街で見かけるシニアカーに乗ってみた



始めに、スズキのセニアカー「ET4D」に乗ってみた金子さん。

斜面もラクラク、ただし急な坂道の走行はNG。走行できる坂道の角度は、上り下りともに約10度までが目安となっている。



「シニアカー」とは、名前のとおり高齢者向けにつくられたひとり乗りの電動車両のこと。足腰がつかないとき、思わぬ怪我をしてしまったときに、思わぬ力を発揮してくれる便利な乗り物です。

今回は知っているようで知らない「シニアカー」に、孫世代が乗ってみました!

文=草野恵子 写真= GOTO AKI 協力= D-cart (ディーカート)

今回シニアカーに乗るのは、20代会社員の金子愛さん。最初に乗るのはスズキの「セニアカーET4D」です。街でよく見かけるタイプのシニアカー、見た目はひじ掛け椅子にスクーターがくっついたような印象。柴田さんに操作を教えてもらいながら、歩道を抜けて公園に向かってみます。

公園の入り口は砂利道でゆるやかなスロープを描いています。シニアカーは舗装された歩道での走行を想定してつくられているため、深い砂利道や雪道などを走行することはできません。少々の砂利道なら大丈夫ですが、注意が必要。また急な坂道の走行はできないので、走行ルートについては事前にチェックする必要があります。

最初は戸惑っていた金子さんですが、すぐ操作に慣れた様子。公園内の勾配もラクラク登っていき、下り坂もスピードが出過ぎず安心。ただし、ちょっとした段差は要注意。シニアカーは8センチ程度の段差までなら越えることができますが、それ以上は危険。そういった意味では道路をきちんと見極める判断力が必要です。「あ

わてずきちゃんと操作できれば、とても安全な乗り物ですね」と金子さんは語ってくれました。

今度はホンダの「モンパルML200」に挑戦。見た目の印象はかなりスクーターに近く、その鮮やかな色合いに目を奪われます。「その昔にホンダのバイクを乗り回していたような男性は、この機種が好きだとおっしゃいます」と柴田さん。なるほど、昔取ったきねづかですごいものアリ! 金子さんいわく「こちらの方が立ち上がりが早い気がします」。やはりブランドごとに特徴があるので、乗り比べるのは大事です。

金子さんが勤める会社では地方の街おこしのプロジェクトに携わっており、過疎化や高齢化の問題については考えさせられることがあると言います。少々足腰が弱くなっても自由に外出できるツールとして、シニアカーも選択肢のひとつ。地域によっては、スーパーや美術館にそのまま入れるところもあるそうです。高齢化社会を迎える日本にとって、これからさらに強い味方となってくるかもしれません。

車輪でGO!

